

会場のご案内

交通のご案内



参加申し込みについて

- 参加にあたっては、本開催要綱に封入の「参加・宿泊・交流会等の申し込みのご案内」をよくお読みいただき、「第8回全国校区・小地域福祉活動サミットat関西学院大学」参加申込書に必要事項をご記入のうえ、FAXまたは郵送でお申込みください。
- 参加にあたっては参加費が必要です。(1日目のみ参加 3,500円 2日目のみ参加 3,500円 両日参加 5,000円)
- 基調講演を含む全体会のメイン会場は、600人収容(※先着受付順)のため、残りの会場はメイン会場からの中継となります。
- 参加にあたって、手話通訳・要約筆記・車イス補助等が必要な場合は、参加申込書備考欄に希望することを具体的にご記入ください。

参加券の送付について

参加申込書により参加費用請求書と参加券を郵送いたします。
グループでお申し込みの方に関しては、代表者に一括して送付します。

申込締切日

2014年8月15日(金) ※ただし、会場の都合により定員1,000人に達した時点で申し込みを締め切らせていただくこともあります。

参加申込に関するお問い合わせ先

名鉄観光サービス株式会社 なんば支店
〒542-0076 大阪市中央区難波4-7-14 難波阪神ビル 11階
TEL/06-6645-8080 FAX/06-6645-8090 〈営業時間〉平日9:00~18:00(土日祝/休み)

内容に関するお問い合わせ先

「第8回 全国校区・小地域福祉活動サミットat関西学院大学」実行委員会
事務局:全国コミュニティライフサポートセンター(CLC) 担当:田村
〒981-0932 宮城県仙台市青葉区木町16-30 シンエイ木町ビル1階
TEL/022-727-8730 FAX/022-727-8737 URL:http://www.clc-japan.com

地域で
“はたらく”

生活困窮

地域づくり

つどい場

引きこもり・若者

廃校活用

都市・孤立

ほっとけへん!

おひとりさまからお互い様へ
～助けられ上手への脱皮～

災害

子どもの貧困

過疎

防災・減災

認知症

集合住宅

生活支援
活動

開催日 **2014年 9月13日(土)・14日(日)**

会場 **関西学院大学 西宮上ヶ原キャンパス(G号館)**

主催:「第8回全国校区・小地域福祉活動サミットat関西学院大学」実行委員会
小地域福祉活動を楽しむ全国ネットワーク/全国コミュニティライフサポートセンター
後援:厚生労働省/全国社会福祉協議会/西宮市/宝塚市/伊丹市/尼崎市/芦屋市/
社会福祉法人 西宮市社会福祉協議会/社会福祉法人 宝塚市社会福祉協議会/
社会福祉法人 伊丹市社会福祉協議会/社会福祉法人 尼崎市社会福祉協議会/
社会福祉法人 芦屋市社会福祉協議会/関西学院大学 人間福祉学部

開催趣旨

急激な勢いで単身世帯がふえています。人と人とのつながりが地域でも職場でも薄くなり、家族の絆さえ断ち切れようとしています。生活困難や災害被災は他人事ではないのです。ご近所や働く仲間で支え合う方法や途はないのか。一人で考えるよりお互いに助け合う時代を一緒に切り拓いていきませんか。私たちの暮らしを細切れにバラバラにされるような、行政任せ業者任せの依存体質から、暮らしや人生を自分たちで創り出し、選択できる「助けられ上手」に脱皮するのは、今です。今しかないでしょ。

第8回 全国校区・小地域福祉活動サミット at 関西学院大学

おひとりさまからお互い様へ
～助けられ上手への脱皮～

開催日 2014年9月13日(土)・14日(日)

会場 関西学院大学 西宮上ヶ原キャンパス (G号館)

定員 1,000人(先着順)

参加費 1日のみ参加 3,500円/人 2日間参加 5,000円/人
※交流会に参加される場合は別途5,000円が必要です。

交流会 1人 5,000円 参加申込締切 2014年8月15日(金)

9月13日(土) 1日目
プログラム

11:30～12:30	受付
12:30～12:40 (10)	開会 ●開会挨拶 「第8回 全国校区・小地域福祉活動サミットat関西学院大学」実行委員会 実行委員長 牧里 毎治
12:40～13:40 (60)	基調講演 「すべての人を社会の一員に ～激動する社会の中で考える～」 社会福祉法人恩賜財団済生会 理事長／日本障害者リハビリテーション協会 会長／ソーシャルファームジャパン 理事長 炭谷 茂
13:40～14:00 (20)	移動・休憩
14:00～16:00 (120)	分科会 P.2～5をご覧ください。
16:00～16:20 (20)	移動・休憩
16:20～17:20 (60)	“まとめ”やけど“まとめへん” 「全員参加型ワークショップ」 一日目の終わりとして、基調講演や分科会でのお話を振り返って、聞いたこと、感じたこと、考えたこと、そして、参加されたお一人おひとりが考える、「助けられ上手への脱皮」のコツやエッセンスを、あえてまとめることなく、参加者全員で分かち合います！ ◆進行役 第8回 全国校区・小地域福祉活動サミットat関西学院大学実行委員会メンバー
17:20～17:30 (10)	閉会・引き継ぎ式
19:00～21:00 (120)	交流会

分科会

1 「助けたり、助けられたり最期まで暮らせる地域をつくるには」

年をとっても、『その人らしく』住み慣れたところで暮らすには、助け合いが必要です。地域の中でどこまで支えることができるのか考え、助けたり・助けられたりしながら最期まで暮らせる地域づくりを一緒に考えてみませんか？

実践報告

特定非営利活動法人 愛達(兵庫県尼崎市) 理事 兼行 栄子
特定非営利活動法人 NPOいちいの郷(高知県四万十市) 副理事長 太田 成人
永源寺診療所(滋賀県東近江市) 所長 花戸 貴司

コーディネーター

日本福祉大学 教授 平野 隆之

特定非営利活動法人 愛達 (兵庫県尼崎市)

医療生協を母体としたVグループが独立し、NPO化。有償活動、ヘルパー派遣、配食サービス、看取りの家(愛達の家)の運営、地縁組織との協働による見守り活動等を行っています。

特定非営利活動法人 NPOいちいの郷 (高知県四万十市)

高齢者・障がい者、こども子育て支援が必要な方は、誰でも利用可能な小規模多機能なサービス提供を行う「あったかふれあいセンター事業」を、市の委託を受けて実施。住み慣れた地域で必要なサービスを受け、安心して暮らせるしくみづくりに力を入れています。

永源寺診療所 (滋賀県東近江市)

滋賀県東近江市永源寺地区は、自宅で亡くなる人が4～5割にのぼる。中山間地区でもコミュニティは薄れつつあるが、永源寺診療所の医師をはじめ、看護師、ヘルパー、薬剤師、民生委員など医療・介護の専門職と一般住民の非専門職が連携することによって、人生の最期まで安心して生活できるよう支えています。

分科会実践報告団体 活動概要一覧

分科会

2

「“はたらくを考えよう”～障がい者も共にいきいき働く現場から～」

障がいのあるなしに関わらず、誰もが住み慣れた地域でいきいきと暮らす社会をつくるうえで、“はたらく”ということはひとつの重要なファクターです。本分科会では、障がい者が働くことで、社会の中での役割を担い、地域に貢献している実践事例を通じて、「誰もが自分らしく“はたらく”」ということについて考えます。

実践報告

社会福祉法人 よさのうみ福祉会(京都府与謝野郡与謝野町) リフレかやの里管理者 藤原 さゆり
社会福祉法人 優輝福祉会(広島県庄原市) 理事長 熊原 保
特定非営利活動法人 こむの事業所(兵庫県宝塚市) 統括マネージャー 平尾 昌也

コーディネーター

敬和学園大学 講師 川本健太郎

社会福祉法人よさのうみ福祉会 リフレかやの里 (京都府与謝野郡与謝野町)

京都府北部丹後半島の付け根にある人口約23,000人の与謝野町。34年にわたり作業所や生活支援センターなどを運営しながら、障がい者や家族の支援を行ってきたよさのうみ福祉会が、一度は閉鎖した町立の宿泊型保養施設の指定管理者となり、健常者とともに障がいのある人を多く雇用しながら、ホテルや地元農産物を活用したレストラン、大浴場、農産加工所の運営を行っています。

社会福祉法人 優輝福祉会 (広島県庄原市)

YOU-SHINE「あなたが輝けばわたしも輝く」を理念に、子どもからお年寄りまで、障がいの有無にかかわらず、すべての人が自在に利用できる「小規模・多機能・柔軟対応」の福祉拠点で「共生型福祉」の構築と実践を図っています。里山の天然水を活用し、自家製造場で「赤い羽根の水」などの製造・販売や、小さな農家から買い上げた里山産品を地域内循環しています。

特定非営利活動法人 こむの事業所 (兵庫県宝塚市)

阪神・淡路大震災時の救援ボランティア活動の経験から、公益財団法人プラザ・コムが設立され、福祉コミュニティプラザがつけられました。その中でこむの事業所は、ソーシャルファーム(社会的事業所)の考えに立って、障がい者をはじめとして社会的に仕事を得にくい人々に対して、社会的意義のある仕事を提供しています。現在、市場事業やレストラン運営、ビル管理やパソコン修理などの事業を障がいのある職員とともに実施しています。【働く】ことを通じて社会的排除のない地域社会づくりを目指します。

分科会

3

「ふだんから、そして災害時にも助け合えるまちづくり」

災害時は、私たちの日頃の暮らしが一気に脅かされ、身近な地域での助け合いが非常に重要となります。住民同士のつながりを活かして、災害時に備える具体的なプログラムや、それを平常時の支援活動やネットワークづくりと連動させていく視点など、防災を切り口に福祉のまちづくりをすすめるポイントについて、実践事例から考えます。

実践報告

有岡小学校地区地域福祉ネット会議(兵庫県伊丹市) 委員長 吉井 正
副委員長 福田 知子
特定非営利活動法人 災害ボランティアネットワーク鈴鹿(三重県鈴鹿市) 理事長 南部美智代

コーディネーター

特定非営利活動法人 さくらネット 代表理事 石井布紀子

有岡小学校地区地域福祉ネット会議 (兵庫県伊丹市)

『地域福祉ネット会議』とは、小学校区内の住民、当事者、関係団体等が広く参加し、福祉課題の発見と解決に向けての話し合いを行う会議のことです。有岡小学校区では、災害時要援護者支援を地域の福祉課題ととらえ、『防災』をキーワードに校区住民全戸を対象としたアンケートや講演会を実施してきました。現在は、校区内の子ども・高齢者・障がい者へ『防災まちあるき』への参加を呼びかけ、『校区住民がつくる防災地図』を作成中です。

特定非営利活動法人 災害ボランティアネットワーク鈴鹿 (三重県鈴鹿市)

阪神・淡路大震災後に防災マップづくりやネットワークづくりを開始。『子どもから広がる情報は防災意識の伝達に非常に有効』『将来の防災リーダーを育てる』との思いから『子ども防災サミット』に取り組み、三重県内では定着。消火器訓練、暗闇体験、ロープ渡り、ストローハウス等のプログラムに加え、紙芝居が全国で好評。

分科会

4

「集合住宅を地域の力に!!」

“集合住宅”の強みとは何でしょうか？同じ集合住宅で生活しているからこそ団結力や行動力があると思います。また、集合住宅の中だけでなく近隣住民や団体等、外との連携が集合住宅にも地域にも、さらなるパワーとなるはず。 “集合住宅発の地域づくり”を皆さんで考えてみませんか？皆さんの地域活動にも生かせるイロハがきっと見つかるはずです!!

実践報告

森の里荘自治会(愛知県名古屋市長区) 会長 小池田 忠
中山五月台六丁目ささえ合いシステム すけっと(兵庫県宝塚市)

代表 井原 利夫
理事長 長谷川 明

コーディネーター

日本福祉大学 教授 児玉 善郎

森の里荘自治会 (愛知県名古屋市長区)

10棟1252世帯の市営住宅を活動の場とし、高齢者支援活動(ひとり暮らしの高齢者の鍵を預かる活動・シルバーサロンなど)や地域のNPOと連携し中高生の居場所づくりなどを行っています。さまざまな苦難を乗り越えて、現在の活動につながっています。

中山五月台六丁目ささえ合いシステム すけっと (兵庫県宝塚市)

いつまでも住み続けたいまちづくりをテーマに、地域のニーズに応えた支え合い活動(生活支援・居場所づくり・安全見守りなど)や、地元小学校での環境体験学習の広げ・交流授業などを実施。自治会や団地管理組合とも協調しながら、多くのボランティア会員が担当分野で活躍中。

明倫自治連合会 (京都府京都市中京区)

昔ながらの伝統を受け継ぐまちで安全で安心なまち“明倫”の実現を目指したまちづくりを推進。近年、マンション建築が急増し、住民の8割がマンション居住者に。新旧住民の共生・共存をたいせつにしながら、楽しみながら交流を深めておられます。

分科会

5 「孤立させない!!子育て、大人育てをまち全体で」

「子どもの貧困対策推進法」が成立し、貧困家庭の子ども支援のあり方が問われています。「すべての子ども」の成長を支える地域基盤の活動を基本にしつつ、子どもとその親を孤立させず、背景にある貧困などの課題に対して、教育支援・生活支援へと展開した事例を紹介します。地域全体での子育て・子育てによって、周りの大人が育ち、まち全体がつながって、貧困の連鎖が断ち切られていくという可能性を探っていきます。

実践報告

特定非営利活動法人 山科醍醐こどもひろば（京都府京都市山科区） 理事長 村井 琢哉
特定非営利活動法人 暮らしづくりネットワーク北芝（大阪府箕面市） 職員 松村幸裕子
特定非営利活動法人 ハートフレンド（大阪府大阪市東住吉区） 代表理事・事務局長 徳谷 章子

コーディネーター

大阪教育大学 教授 新崎 国広

特定非営利活動法人 山科醍醐こどもひろば （京都府京都市山科区）

演劇や舞台活動を通じて、子育て中のお母さんと子どもたちの情操や豊かさを育むため、1980年設立。現在は「すべての子どもたち」を対象に「子どもを真ん中に」した野外活動、地域の探検活動を行っています。地域の連携と協力のもと、学習サポートや生活支援とともに、さまざまな体験活動を展開しています。

特定非営利活動法人 暮らしづくりネットワーク北芝 （大阪府箕面市）

「出会い・つながり・元気」をテーマに、住民のつづやきを拾いながら誰もが安心して暮らせるまちづくりを展開中。地域に残る貧困の連鎖や、新たな貧困が生まれている現状から、その渦中にある子どもたちが自ら豊かな未来の選択をできるよう、こども通貨「まーぶ」を地域通貨として流通させています。

特定非営利活動法人 ハートフレンド （大阪府大阪市東住吉区）

子ども会に携わった母親15人が、「すべての子ども達の居場所づくり」を目的に活動開始。3年間の「地域子ども教室」受託から、地域の既存組織・青少年団体が協力する「地域ぐるみの子育て支援活動」へ発展し、平成18年NPO法人化。世代間交流、障がいのある子どもの放課後事業など出産から高齢者まで総合的な福祉のまちづくりを目指します。

分科会

6 「若者の地域参加・参画で地域(まち)が元気に！」

引きこもり等の生きづらさを抱えた若者への支援は、精神保健・医療領域の取り組みや公的支援だけではなく、地域の福祉的課題とみなされるようになっていきます。制度の狭間で孤立し、社会での居場所や役割を見い出せず複合的課題を抱える若者に対し、地域の居場所や仕事づくりを行う先進事例をとおり、まちづくりと地域福祉の充実につながっていく可能性について学びます。

実践報告

藤里町社会福祉協議会（秋田県藤里町） 常務理事 菊池まゆみ
一般社団法人 オシテルヤ（大阪府大阪市東住吉区） 代表理事 槇 邦彦
若者支援サークル よりみち（和歌山県伊都郡かつらぎ町） 保健師 木村 晃子

コーディネーター

特定非営利活動法人 育て上げネット 若年支援事業部 担当部長 高崎 大介

藤里町社会福祉協議会 （秋田県藤里町）

著書「引きこもり 町おこしに発つ」。町全体の引きこもり把握調査に始まり、関わるなかで、弱い人ではなく、働く場所がないために、家に引きこもらざるを得なかった人たちという発見があった。働く場をつくるため就労支援施設を開設、「中間的就労」として、食事処の経営や、高齢者の買い物サポートなども行う。現在は、商店街も支援の輪に加わり、町にどんな仕事があるのか、講義を受ける場も提供。

一般社団法人 オシテルヤ （大阪府大阪市東住吉区）

大阪市南部に位置し、かつては多くの野宿者が生活していた長居公園。その近くにある古い長屋を開放したフリースペース「オシテルヤ」を拠点に、違いを認め合い、支え合える誰もが住みやすいユニバーサルな街づくりをめざして活動をしてきました。特にここ数年は、ニート状態にある若者たちの仕事づくりを、公的な支援を受けず自力で取り組んでいます。一定の成果を上げる一方で、今後どう継続していくかを模索中。

若者支援サークル よりみち （和歌山県伊都郡かつらぎ町）

ひきこもりの子どもを持つ家族、理解のある地域住民らが、町内のひきこもりの若者達を支援すべく、平成20年ボランティアでスタートした団体。現在、若者がつどう居場所や家族会、サポーター事業を実施。平成26年4月から町の産直所運営をまかされ、若者支援と町の農業振興をからめ奮闘中。（H26年5月NPO団体へ申請）

分科会

7 「廃校活用の地域づくり」

少子化により子どもの数が激減、また市町村合併により、学校の廃校が増えています。本分科会ではこのような廃校が抱える課題に対して、①廃校を活用した地域づくり、②再開校に向けた地域づくりの2つの観点から考えたいと思います。地域住民の誰もが通った思い出のある学び舎を地域づくりに活用する、また廃校のままで終わらせない取り組みについて考えます。

実践報告

北野工房のまち（兵庫県神戸市中央区） 株式会社サウンドプラン 代表取締役 追中 智信
ゆうばり型共生ファーム（北海道夕張市） 一般社団法人らぶらす 代表理事 安斉 尚朋
槻木小学校（熊本県多良木町） 熊本県多良木町企画観光課 集落支援員 上治 英人

コーディネーター

独立行政法人日本学術振興会 特別研究員 丹間 康仁

北野工房のまち （兵庫県神戸市中央区）

子どもの数の減少と阪神・淡路大震災が重なり、廃校となった旧北野小学校を活用した地域づくりに取り組んでいます。「小さくてもキラリと光る」存在で在ること、在り続けることを基本理念にし、その実現に向け、「ここにしかない」を戦略としています。校舎を「神戸ブランドに出会う体験型工房」に、校庭を観光バスの駐車場として活用し、今では年間約75万人の来館、約1万台の観光バスでの利用があります。

ゆうばり型共生ファーム （北海道夕張市）

廃校となった旧夕張小学校を活用した地域づくりに取り組んでいます。一般社団法人らぶらすが「たくさんの人が集まる拠点づくり」という理念のもと、障がいを持つ方や高齢者、大人も子どもも、どんな方でも集える地域の拠点として開設しました。現在はアスパラやチコリの栽培、カフェの営業を行い、今後、新たに図書コーナーの開設が予定されています。

槻木小学校 （熊本県多良木町）

2007年から開校していた小学校が、2014年度に再開校しました。槻木地区の住民は「ここで住み続けたい」という意向が強く、現実的な選択として集落を存続させるしかない状況でした。槻木プロジェクトの一環で、地域を活性化する「集落支援員」として移住者を募り、その応募者の子どもが入学することとなりました。

分科会

8 「皆でみんなを支え合う!～交ざり合う社会を考える～」

これまでは、高齢者は高齢者を対象にしたサービスを、障がい者は障がい者を対象としたサービスを受けるというように、高齢者・障がい者・子どもとそれぞれが別々の支援を受けていました。しかし、これからは同じ地域に住む人同士が、それぞれの役割を持ちながら、困ったことをお互い支え合う形に変化していきます。地域でいろんな人が交ざり合う社会を一緒に考えましょう。

実践報告

つどい場 和～なごみ～（兵庫県西宮市） 理事長 森 郁子
副理事長 田村 幸大
特定非営利活動法人 ひらすま（富山県高岡市） 代表 佐伯知華子
コスモスサロン（滋賀県高島市安曇川町藤江地区） 梅村 頼子
コーディネーター 桃山学院大学 教授 松端 克文

つどい場 和～なごみ～ （兵庫県西宮市）

子どもからお年寄りまでが多世代で交わり、交流できる場をつくりたいという想いから、地域の方所有の古民家を無償でお借りし、「つどい場」をスタート。地域で暮らす人たちが、世代をこえてつながるきっかけとなる場所を目指し、地域・行政・大学・地元の事業所などが連携し、実施しています。

特定非営利活動法人 ひらすま （富山県高岡市）

「ひらすま」とは富山の方言で「お昼寝・お昼休み」の意味。赤ちゃんからお年寄り、障がいの有無に関係なく、一緒に過ごす富山型デイサービスを運営。「ひらすま」は小さな交ざり合う社会。「ひらすま」が地域にあると、地域そのものが交ざり合う社会になっていきます。

コスモスサロン （滋賀県高島市安曇川町藤江地区）

藤江地区では見守りの視点から住民だれもが参加できる「ワンコインカフェ」を始め、活動を行っています。その中、いつもは参加が少ない男性限定参加の「メンズサロン」を開催し、男性が参加しやすい取り組みを工夫するなど、ボランティアも楽しみながら住民のつどい場を創り出しています。

分科会

9 「困りごと、ほっとけへん!～ひとりの“困った”を地域の力に～」

地域の中で人々が抱えるさまざまな困りごと。「ちょっと助けてあげたい」「誰かに助けてほしい」そう思ってもなかなか声に出せないものです。でもそんなところに一歩踏み込んで、住民が支え合う活動も生まれてきています。さて、それはどんなきっかけで動き出し、どのように機能させていったのでしょうか。いくつかの実践事例をもとに、明日からの活動のヒントを見つけませんか？

実践報告

お片づけ隊（兵庫県西宮市） 西宮市社会福祉協議会鳴尾東分区 分区長 坪倉 勝
おの地域通貨かもん（兵庫県小野市） 代表 高橋 一夫
松本町みまもり惣菜屋（愛知県岡崎市）
特定非営利活動法人 岡崎まち育てセンター・りた 事務局長 天野 裕
コーディネーター 神戸学院大学 総合リハビリテーション学部 教授 藤井 博志

お片づけ隊 （兵庫県西宮市）

家具の移動や庭の草取りなど高齢者の非日常的な「困りごと」を、住民自身が運営する地区ボランティアセンターを中心に、「お片づけ隊」（年2回）を結成して解決しています。安心生活創造事業として「あんしんキット」を高齢者に配布したあと、対象者へのニーズ調査から生まれた仕組みで、活動者の人材発掘にもつなげています。

おの地域通貨かもん （兵庫県小野市）

高齢者の話し相手や買い物同行など、公的サービスが行き届かない隙間の分野で、地域通貨をととして活動中。会員は「自分ができること」「してもらいたいこと」を登録し、サービスの提供を受けると、地域通貨「かもん」を「報酬」として渡す仕組みです。地域通貨は、地域の賛助店舗でも使うことができます。

松本町みまもり惣菜屋 （愛知県岡崎市）

「松本町のお年寄りの生活を何とかしたい」という住民による話し合いの結果、スーパーが離れていたり、自分で調理ができなかったりする高齢者のために、会員制の惣菜店をスタート。会員が買い物に来たかどうか木札で確認し、必要に応じて地域包括支援センターに連絡するなど、見守りも行える仕組みづくりをしています。

分科会

10 「認知症討論会～認知症になっても支え合える地域をつくるために～」 ラウンドテーブル テーマ「認知症のことを語り合いましょう！」

介護保険だけでは認知症を看てもらえなくなる時代が来ます！あなた自身が認知症になったとき、安心して地域で暮らせませんか？認知症について語り合いましょう！

実践報告

特定非営利活動法人 しらかわの会（福岡県大牟田市） 事務局長 前原 剛
ほっこり庵（兵庫県宝塚市） 代表 西山 良孝
望海地区在宅サービスゾーン協議会（兵庫県明石市） 事務局 永坂 美晴

コーディネーター

（財）長寿社会開発センター 理事・審議役 石黒 秀喜

特定非営利活動法人 しらかわの会 （福岡県大牟田市）

2010年に「住み慣れた場所でいつまでも安心して住み続けることができるまちづくり」を目指して設立しました。大牟田市の白川小学校区を活動エリアとし、高齢者等支援を行っています。庭の草取りや通院支援などの日常生活支援やサロン活動を基盤に、小学校児童の通学路点検、校区清掃活動にも取り組んでいます。

ほっこり庵 （兵庫県宝塚市）

「孤立しない」「させない」「男性介護者」私たちのたいせつにしている言葉です。男性介護者による虐待・殺人事件は、社会から孤立することから始まります。介護に疲れた時、寂しくなった時、おしゃべりするもよし、話を聞くだけでもよし。悲しい事件が起こらないように、ほっこり庵は年中無休で男性介護者を待っています。

望海地区在宅サービスゾーン協議会 （兵庫県明石市）

住民と専門職・行政が一緒に企画協働するのが望海地区の特徴です。住民も参加する「ぼうかい劇団」の地域劇や「安心してんば事業」の実施、災害時要援護者避難支援などを通じて、地域課題への関心を高め、専門職・行政を巻き込んだ住民同士の見守りにつながっています。

9:00～ 9:30 受付

9:30～11:15 (105)

事例研究1 「都市の中の孤立からの脱出」

「孤立」が社会問題となつて久しいですが、都市部では特にそれが顕著で、地域でよりどころとなる関係をもたずに、孤立している人々に対し、どのようにアプローチしていけば、そこから脱出できるのかは、地域福祉活動をされている方々にとって大きな課題となっています。この分科会では、都市の中で孤立する人々を、同じ住民としてどのようにすればつなげていくことができるのか、先進事例を踏まえながら考えていきます。

◆実践報告

光明地区・宝塚福井鉄筋住宅(兵庫県宝塚市)
ボランティアグループ ぐるーぷなか 代 表 中 八重子
特定非営利活動法人 コスモスの家(神奈川県川崎市多摩区)
理事長 渡辺ひろみ

◆コーディネーター

日本福祉大学 教 授 児玉 善郎

事例研究2 「災害時への備えを先取り」

東日本大震災や今後予測される大規模震災により、防災・減災に関する地域福祉活動は広がり、意識は高まってきています。これまでのサミットでも、災害に備えた実践について、いくつもの報告が行われてきました。ここでは、過去のサミットに登壇した地域を迎え、防災・減災を中心に、変わりゆく地域の中での継続的な実践について深めていきます。

◆実践報告

塙山学区住みよいまちをつくる会(茨城県日立市) 会 長 西村ミチ江
社会福祉法人ほっとスマイル(兵庫県西宮市) 理事長 赤石 貞子

◆コーディネーター

東洋大学 准教授 加山 弾

事例研究3 「認知症のある隣人とのお付き合い」

NHK報道により、年間1万人もの認知症の方が徘徊し、行方不明になっている事実が明らかになりました。ひとり暮らし高齢者の認知症も増えており、家族、制度だけでは支援が難しくなり、認知症のある方と地域がどう付き合っていくのか求められています！今回は第1回校区サミット登壇者「しらかわの会」「すずの会」の活動報告を受け、認知症のある隣人とどうお付き合いしていくのか学びます。

◆実践報告

特定非営利活動法人 しらかわの会(福岡県大牟田市) 事務局長 前原 剛
ボランティアグループ すずの会(神奈川県川崎市宮前区) 代 表 鈴木 恵子

◆コーディネーター

特定非営利活動法人 全国コミュニティライフサポートセンター
理事長 池田 昌弘

光明地区・宝塚福井鉄筋住宅(兵庫県宝塚市)

阪神・淡路大震災後に建てられた県営の復興住宅で、入居者の多くは仮設住宅から移り住んだ人々です。総戸数30戸で、そのうち20戸がシルバーハウジングとなっており、急激な高齢化が進んでいます。そのようななか、ボランティアグループ・まち協が中心になり、集会室を利用してサロンや会食会、相談窓口など、団地と周辺地域をつなぐ多様な活動を展開されています。

特定非営利活動法人 コスモスの家(神奈川県川崎市多摩区)

「一番怖いのは孤独です」、「近くにおしゃべりできる場所が欲しい」という、ひとり暮らしになった高齢者の願いからはじまりました。こういった地域住民の願いを一つ一つ実現するために、「安全・安心で住み続けられるまちづくり」を目指して、デイサービスや保育園、配食サービスなど多様な活動を、住民の力で実現されています。

塙山学区住みよいまちをつくる会(茨城県日立市)

課題をみつけるたびに事業が増え、活動内容は健康づくりから環境整備、子育て支援や介護予防、防犯、防災まで多彩。当初から助成金をあてにせず、住民から活動資金を基金する方法をとっています。1989年住民みんなで策定した「塙山コミュニティプラン」を皮切りに、5年に一度の見直しを行い、プランに沿った活動を続けています。

社会福祉法人ほっとスマイル(兵庫県西宮市)

兵庫県西宮市北部に位置する東山大地区で阪神・淡路大震災の経験を経て、まちづくりに携わり、若い人も安心して子育てができる保育所づくりに行政と住民が協議を設けて社会福祉法人の認可を受けた。現在は保育所と障がい児通所支援事業所を運営している。また高齢になっても災害がおこっても「住み慣れた地域で安心して暮す」繋がりや支え合いのネットワークづくりに日々取り組んでいる。

特定非営利活動法人 しらかわの会(福岡県大牟田市)

2010年に「住み慣れた場所でいつまでも安心して住み続けることができるまちづくり」を目指して設立しました。大牟田市の白川小学校区を活動エリアとし、高齢者等支援を行っています。庭の草取りや通院支援などの日常生活支援やサロン活動を基盤に、小学校児童の通学路点検、校区清掃活動にも取り組んでいます。

ボランティアグループ すずの会(神奈川県川崎市宮前区)

1995年小学校のPTA仲間を中心に「すずの会」を設立。高齢者、障がい者とその家族とともに支え合い、誰にでも優しい街づくりネットワークを目指し、気になる人の生活課題の解決に向けて身の丈に合った活動の実践を続けています。2014年4月、空き家を借り「すずの家」をオープン。地域支援モデル事業を川崎市より受託。

事例研究4 「過疎地に学ぶワスレモノとタカラモノ」

昨年度、「里山資本主義」という本がベストセラーになりました。行き過ぎた市場経済と裏腹に、市場によらない交換こそが豊かな暮らし、生活をもたらすというお話でした。「過疎地域」には、そんな人と人、人と自然との暮らしの源泉と、「市場」の波にもまれてどこかに置き忘れてきたなにかを気づかせてくれるモノがあります。この分科会では、過疎地に行つてこそ気づく現代社会のワスレモノと、発想の転換から見えてくるタカラモノについて、考え、学び合います。

◆実践報告

社会福祉法人 優輝福祉会(広島県庄原市) 理事長 熊原 保
川根振興協議会(広島県安芸高田市) 会 長 辻駒 健二

◆コーディネーター

鳥取大学 准教授 竹川 俊夫

事例研究5 「生活困窮者支援への新しい挑戦」

来年4月から、新たな生活困窮者自立支援制度が本格的に始まります。地域での支え合い活動においても、経済的に困窮している人や孤立した人に出会うことは少なくありません。新たな制度動向を見据えながらも、今そこにあるニーズを直視し、支援が必要な人を発見し、支えていくために、身近な地域でこそできることとは何か。地域発の2つの挑戦を読み解きます。

◆実践報告

平野学区社会福祉協議会(滋賀県大津市) 会 長 戸知谷俊治
特定非営利活動法人 暮らしづくりネットワーク北芝(大阪府箕面市)
職 員 尼野 千絵
職 員 宮武由紀子

◆コーディネーター

大阪市立大学 教 授 岩間 伸之

11:15～11:30 移動・休憩

11:30～12:00 (30)

「大胆にも二日間の内容を“ギュッ”とまとめるシンポジウム」

二日間のプログラムをとおして、「お互い様のまちづくり」を目指して明日から実践してみたい、そして誰にでもできる「助けられ上手への脱皮」の心がけや心意気を、1日目の『“まとめ”やけど“まとめへん”全員参加型ワークショップ』で出てきた意見も含めて、大胆にもまとめていきます！

◆登壇者

「第8回全国校区・小地域福祉活動サミットat関西学院大学」実行委員会メンバー

◆コーディネーター

「第8回全国校区・小地域福祉活動サミットat関西学院大学」実行委員長／
小地域福祉活動を楽しむ全国ネットワーク世話人／関西学院大学 人間福祉学部 教授 牧里 毎治
「第8回全国校区・小地域福祉活動サミットat関西学院大学」実行委員
神戸学院大学 総合リハビリテーション学部 教授 藤井 博志

12:00～12:10 閉会式

社会福祉法人 優輝福祉会(広島県庄原市)

一日目にも登壇される熊原保さんは、社会福祉法人の理事長や施設長として活躍される傍ら、「過疎を逆手にとる会」の主要メンバーでもあります。「ハンデはマイナスではなく、玉手箱である」という逆転の発想を持って、これまでも廃業になった旅館を施設として再利用したり、デイサービスに通う高齢者が自宅で育てた野菜で余ったものを買回して施設で出す食事に利用するなど、地域の資源を活かしたさまざまな工夫を凝らした取り組みを行っています。

川根振興協議会(広島県安芸高田市)

交流と地域活性化の拠点として建設された「エコミュージアム川根」や住民が集まり、食事を一緒にとって帰る月3回の自主運営によるサロン、住民からカンパを募り、自分たちで運営する商店やガソリンスタンドなど地域全戸が加入する「川根振興協議会」のもと、将来への夢を描いた「川根夢ロマン宣言」によって、つぎつぎと整備され、自然を守り、住んでいる人が自分の生活に生きがいを持ち、個性豊かな地域づくりが進められています。

平野学区社会福祉協議会(滋賀県大津市)

大津市内の学区社協では、カップ麺やレトルト食品などを集め、緊急で支援が必要な人のための「生活支援物資収集活動」を展開。また「法外援護資金」という独自の貸付資金のしくみを持つ。平野学区社協は、今年度から、夏休み期間中に、子どもの居場所づくりと宿題の支援をする「寺子屋プロジェクト」にも取り組んでいます。

特定非営利活動法人 暮らしづくりネットワーク北芝(大阪府箕面市)

「出会い・つながり・元気」をテーマに、住民のつづやきを拾いながら誰もが安心して暮らせるまちづくりを展開中。また、パーソナルサポート事業、生活困窮者自立促進モデル事業などを受託する中で、それらの対象となる人や制度の狭間で困窮する人の受入れを地域で行い、「居場所と出番」の創出に取り組んでいます。

出展ブース・資料配付について

会場内で小地域福祉活動を紹介するブースを設けます。日頃の活動紹介のほか、出版物や授産品・物産品の頒布などにご利用いただけます。希望される方は事務局までお問い合わせください。

お問い合わせ先

「第8回全国校区・小地域福祉活動サミットat関西学院大学」実行委員会事務局
全国コミュニティライフサポートセンター(CLC)
〒981-0932 宮城県仙台市青葉区木町16-30 シンエイ木町ビル 1階
TEL:022-727-8730 FAX:022-727-8737
※詳細は、申し込み団体あてに、改めてご案内いたします。

募集数 15団体 (応募多数の場合は選考させていただきます)

条 件 ①出展できるのは、小地域活動を行う団体に限ります。
②ポスターなどの展示もしくは授産品・特産品などの頒布を行う場合に限ります。
③1団体1ブースまで。1ブースにつき、机1本とパネル1枚を用意します。(サイズ 机:W1800×D450 パネル H1800×W900)
④小地域福祉活動を紹介する団体のパンフレットやチラシを配布できるコーナーを設けます。希望される方は事務局までお問い合わせください。

出展料 無 料 ※ただし、出展者はサミットへの参加申し込みが必要です。

2014年8月29日(金) 申込締切

全国社会福祉協議会主催

平成26年度

「地域の福祉力セミナー」のご案内

住民が自ら“地域の福祉力”を育み、地域福祉課題の解決に取り組むプロセスをいかに社会福祉協議会がサポートしていくことができるか、その視点や手法について研究・協議することを目的に開催するものです。本年は、住民主体の地域包括ケアシステムを推進するため、専門職と住民が協働した新たな地域支援事業展開の可能性を見つめつつ「地域の福祉力とは何か」をあらためて考えます。

日 時 平成26年9月14日(日) 開会／12時50分 閉会／17時30分

会 場 関西学院大学 西宮上ヶ原キャンパスG号館

定 員 200人 参加費 5,000円

内 容 基調講演「住民主体の地域包括ケアシステムを中心とした新しい地域支援事業の展開」(予定)
シンポジウム「住民主体の地域包括ケアシステムの具現化～地域における助け合い活動の取り組みとその可能性～」(予定)

※開催要綱・申込用紙は、近日中午に以下ウェブサイトに掲載します。全社協地域福祉・ボランティアネットワーク <http://www.zcwcc.net/>